

2019(令和1)年度
学校法人麻生塾 事業報告書

2020年5月31日

学校法人麻生塾の建学の精神

「仕事を通じて社会に貢献」

麻生塾の沿革 麻生塾は1939年（昭和14年）3月31日、採鉱技術者を養成する目的をもって、福岡県飯塚市柏の森の麻生農園跡に誕生した。それは、個人商店として炭鉱事業を営んでいた組織を「株式会社麻生商店」として会社組織に変更した20周年を記念した、教育関係3事業のひとつだった。麻生塾は同社社長・麻生太賀吉氏（1911年～1980年）の、とりわけ深い思い入れをもって創設された。

麻生太賀吉氏は、少年時代に指導を仰いだ九州帝国大学教授の河村幹雄博士（地質学、1886年～1931年）の卓越した人格と学識に強い感化を受け、同博士の教育の理想を具現した学校設立を念願していた。河村博士は地質学者である一方、「教育の他に何者もなし」の信念のもと、教育者としても名高く、今日にも通じる多くの提言を残されている。

時代は太平洋戦争前夜、すでに中国と交戦状態にあり、日々戦時色が濃くなる中、石炭増産が強く叫ばれていた。

麻生塾の目的は、職業を通じて社会に奉仕する中堅産業人を育成することだった。麻生太賀吉氏は、どのような時代になっても人間教育が最も大事であることを、強い信念としていた。創設当時の新聞には「昭和の松陰塾」と報道された。

開校当初、麻生塾の修業年限は3年、これを学習2年、実習1年に分け、各学年とも1学級とした。河村博士の教育方針に徹して少数定員主義をとり、1学年の定員を20名以内とした。入学生は高等小学校卒業生を対象とし、生徒は全て寄宿舎に入る全寮制、学費は全額を支給するほか、社員見習いの資格で月々若干の手当ても支給されていた。

長い戦争が終わり、新生日本の六三三制教育の実施に伴い、1948年（昭和23年）3月、麻生塾は新制高校、麻生塾工業高等学校（採鉱科）として再スタートを切ることになった。学制は変わっても、「仕事を通じて社会に貢献」という建学の精神は、少数定員主義、全寮制、給費制とともに、戦後もそのまま堅持された。そして、その特異な校風は広く教育界に認められるところとなった。

2019(令和 1)年度 事業報告書・目次

I. 法人の概要	
1 沿革	… 5
2 設置する学校・学科	… 6
3 学校別入学定員、学生数等の状況	… 8
4 組織図	… 9
5 役員・評議員・教職員の概要	… 10
II. 事業の概要	
1 重点政策の推進	… 12
(1) 学生募集活動の強化	
①入試政策	
②入学状況	
(2) 就職・キャリア形成支援	
①就職支援策の実施	
②インターンシップの充実	
③外国人留学生への就職サポート	
④実績及びその他の活動	
(3) 教育の質向上	… 13
①教育の質保証のための機構整備	
②教員の資質向上	
③その他	
(4) グローバル推進	… 15
①外国人留学生の受入れ	
②海外留学の強化	
③セブ島語学学習	
④麻生海外留学奨学生制度	
⑤交流イベント	
⑥全在校生対象 無料英語講座の実施	
⑦教職員におけるグローバル醸成	
⑧BINUS ASO School of Engineering 学生 サマーコースの受け入れ	
⑨BINUS 大学 3年次生のインターンシップ受け入れ	
2 学校運営	… 17
(1) 運営組織	
①本部機能	
②各学校	
(2) 社会的責務への対応	
3 教育活動	… 18
(1) 学科の新設及び廃止	
(2) キャリア教育（グローバル シティズン・ベーシック教育：GCB 教育）	
①GCB 教育の概要	
②教育改善	
(3) 研究関連活動	

4	学生支援	…	21
	(1) キャンパスライフサポートセンター設置		
	(2) 学修支援のための奨学金制度		
5	教育環境の整備	…	21
	(1) 教育環境の整備状況		
6	社会貢献・地域貢献	…	22
	(1) 活動状況		
	①次世代リーダー養成塾への担任派遣		
	②ボランティア活動		
7	働きがい創生	…	23

I. 法人の概要

1. 沿革

- 1939年（昭和14年） 麻生太賀吉、幹部社員育成のための完全無料の研修所「麻生塾」を設立。
- 1948年（昭和23年） 学制改革により麻生塾工業高等学校（1983年閉校）設立。
- 1980年（昭和55年） 麻生飯塚病院附属高等看護学院を学校法人麻生塾麻生飯塚看護専門学校に改称。
- 1986年（昭和61年） 麻生電子ビジネス専門学校 開校。
- 1989年（平成元年） 麻生飯塚看護専門学校を麻生医療福祉専門学校に改称。
- 1991年（平成3年） 専修学校麻生外語観光カレッジ 開校。
- 1996年（平成8年） 麻生法律専門学校、麻生医療福祉専門学校北九州校、麻生テクニカルデザインカレッジ 開校。
- 1997年（平成9年） 麻生医療福祉専門学校福岡校 開校。
- 1998年（平成10年） 麻生工科専門学校 開校。
- 2001年（平成13年） 麻生リハビリテーション専門学校開校。麻生テクニカルデザインカレッジを麻生電子ビジネス専門学校北九州校に改称。
- 2002年（平成14年） 麻生法律専門学校を麻生公務員専門学校に改称。
麻生ビューティーカレッジ開校。
- 2003年（平成15年） 麻生電子ビジネス専門学校を麻生情報ビジネス専門学校に改称。
麻生電子ビジネス専門学校北九州校を麻生情報ビジネス専門学校北九州校に改称。
- 2005年（平成17年） 麻生公務員専門学校福岡校 開校。麻生工科専門学校を麻生工科デザイン専門学校に改称。
- 2008年（平成20年） 専門学校麻生工科自動車大学校 開校。
- 2009年（平成21年） 麻生医療福祉専門学校を麻生看護医療専門学校に、専門学校麻生外語観光カレッジを麻生外語観光&製菓専門学校に、麻生工科デザイン専門学校を麻生建築&デザイン専門学校に、麻生医療福祉専門学校北九州校を専門学校麻生医療福祉&観光カレッジにそれぞれ改称。
- 2012年（平成24年） 麻生リハビリテーション専門学校、麻生看護医療専門学校をそれぞれ麻生リハビリテーション大学校、麻生看護大学校に改称。
- 2014年（平成26年） インドネシアの私立総合大学 BINUS 大学と提携し、インドネシアに共同で工学系の学部「Binus ASO School of Engineering」(BASE) を設立。
- 2018年（平成30年） ASO ポップカルチャー専門学校 開校

2. 設置する学校・学科（2019年5月1日 現在）

麻生情報ビジネス専門学校

学 科 …… 情報工学科／情報システム専攻科／情報システム科／
CGクリエイター科／経理科／ビジネスエキスパート科／
情報ビジネス科／経営ビジネス科／経理専攻科／
国際ビジネス科／国際ITエンジニア科／日本語科（2年）／
日本語科（2年）

麻生外語観光&製菓専門学校

学 科 …… エアライン科／エアポート科／ブライダル・ウェディング科／
トラベル科／ホテル・リゾート科／海外ビジネス科／
英語コミュニケーション科／製菓パティシエ科／
国際ホテル・リゾート科／日本語科（1年）／
日本語科（1年6か月）

麻生建築&デザイン専門学校

学 科 …… 建築工学科／建築士専攻科／建築学科（昼）／建築CAD科／
インテリアデザイン科／クリエイティブデザイン学科／
建築学科（夜）

麻生医療福祉専門学校 福岡校

学 科 …… 医療秘書・事務科／診療情報管理士科／
診療情報管理士専攻科／福祉心理学科／社会福祉科／
こども未来学科／介護福祉科／ソーシャルワーカー科／
国際介護福祉科／社会福祉士通信課程／
精神保健福祉士通信課程

麻生公務員専門学校 福岡校

学 科 …… 公務員専攻科／公務員総合科／公務員中上級専攻科／
公務員中上級教養本科

ASO ポップカルチャー専門学校

学 科 …… ゲーム・CG・アニメ専攻科／ゲーム・CG・アニメ科／
マンガ・イラスト・CG科／マンガ専攻科

麻生情報ビジネス専門学校 北九州校

学 科 …… ゲームクリエイター科／システムエンジニア科／
コンピュータシステム科／オフィスビジネス科／

CGクリエイター科／CGデザイン科

専門学校 麻生医療福祉&観光カレッジ

学 科…………… 医事スペシャリスト科／介護福祉科／エアライン科／
ホテル・ブライダル科／国際ビジネス科

麻生公務員専門学校 北九州校

学 科…………… 公務員専攻科／公務員総合科

専修学校 麻生ビューティーカレッジ

学 科…………… 美容科

専門学校 麻生工科自動車大学校

学 科…………… 自動車工学・機械設計科／1級自動車整備科／
2級自動車整備科／日本語科（1年6か月）／
国際自動車整備科

専門学校 麻生リハビリテーション大学校

学 科…………… 理学療法学科（昼間部）／理学療法学科（夜間部）／
作業療法学科（昼間部）／作業療法学科（夜間部）／
言語聴覚学科（昼間部）

専門学校 麻生看護大学校

学 科…………… 看護科／看護科通信課程

3. 学校別入学定員、学生数等の状況

学 校 名	入学定員	収容定員	在学生数
麻生情報ビジネス専門学校	745	1960	1072
麻生外語観光&製菓専門学校	470	880	769
麻生建築&デザイン専門学校	300	600	704
麻生医療福祉専門学校 福岡校	395	945	408
麻生公務員専門学校 福岡校	495	690	779
ASO ポップカルチャー専門学校	225	585	343
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校	200	480	310
専門学校 麻生医療福祉&観光カレッジ	220	440	194
麻生公務員専門学校 北九州校	160	240	309
専修学校 麻生ビューティーカレッジ	156	312	136
専門学校 麻生工科自動車大学校	270	720	366
専門学校 麻生リハビリテーション大学校	240	800	568
専門学校 麻生看護大学校	60	180	188

4. 組織図 (2019年度)



5. 役員・評議員・教職員の概要（2019年5月1日 現在）

(1) 理事・監事

役職名	氏名
理事長	麻生 健
副理事長	古野 金廣
常務理事	川越 浩
理事	林 宏治
	麻生 泰
	橋本 新平
	増本 陽秀
	瀧中 秀敏
	栗尾 城三郎
	柳 倫明
合計	10名（定数10名）
監事	田上 智徳
	浦川 浩一
合計	2名（定数2名以上3名以内）

(2) 評議員

評議員	麻生 泰
	古野 金廣
	林 宏治
	植松 岳
	橋本 新平
	増本 陽秀
	荒木 俊弘
	諫山 秀一
	外戸 隆
	古賀 康夫
	他 11名
合計	21名（定数20名以上22名以内）

(3) 教職員

学 校 名	教員 (専任)	教員 (兼任)	職員 (専任)	職員 (兼任)
麻生情報ビジネス専門学校	40	69	2	37
麻生外語観光&製菓専門学校	33	85	2	
麻生建築&デザイン専門学校	20	54	2	
麻生医療福祉専門学校 福岡校	27	91	7	
麻生公務員専門学校 福岡校	26	15	2	
ASO ポップカルチャー専門学校	14	14	2	
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校	15	24	2	4
専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ	12	66	5	3
麻生公務員専門学校 北九州校	10	4	4	3
専修学校 麻生ビューティーカレッジ	10	21	8	2
専門学校 麻生工科自動車大学校	21	32	6	
専門学校 麻生リハビリテーション大学校	33	81	9	1
専門学校 麻生看護大学校	11	138	16	1
経営企画室			17	
法人本部			18	
教育推進室			9	
情報管理室			9	

II. 事業の概要

2019年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりである。

1. 重点施策の推進

法人及び設置学校の安定した経営基盤確立のため、下記事業活動における各施策の推進に努めた。重点施策の主な実績は以下の通りである。

(1) 学生募集活動の強化

① 入試施策

意欲ある学生の安定的な確保の為、以下の募集活動を展開した。

(ア) オープンキャンパス、出張説明会（九州各県及び山口県）

専門学校に興味を持つ方に対して、各学校、各学科の魅力をお伝えし進路実現を促した。尚、本年度は特に就学支援制度について保護者からのお問い合わせが多く、ご家庭の事情に合わせた個別説明会にも注力した。

(イ) 高等学校の先生方向けの学校説明会

高等学校の先生方に、入学試験の要項、各学科の特徴、業界情報、公務員の学習指導方法などをご説明し、高等学校での進路指導にお役立ていただいた。

(ウ) お仕事スタジアム（15回目）

中高生の職業理解を深めるため、将来の進路を考える上で約100職種のプロに様々な疑問や相談をすることができるイベントを企画したが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、開催を中止した。

② 入学状況

学生募集については、18歳人口の低下の影響が大きく、高等教育機関の多くで、募集環境は厳しさを増している。

麻生専門学校グループは、これまで強みとしてきた就職力に加え、教育力を発信することで麻生専門学校グループの認知を高め、昨年以上の入学実績となった。

(2) 就職・キャリア形成支援

学生に対する就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観醸成及び職業に関する知識・技能を修得して主体的に進路を選択できる能力を育成し、社会で活躍し続ける人材を育成することを目的としている。

① 就職支援策の実施

学生の就職活動支援においては、ファーストキャリアを重要視し、教務部門・就職部門にて業界企業と連携し、学生及び保護者のニーズと照らし合わせ、進路支援を行っている。新任教員向けに開催する就職研修会にて就職指導力の養成を行い、よりきめ細やかな就職支援を提供できる体制を整えている。

「就職・進路ガイダンス」「個別面接対策講座」「各種業界研究」等を実施し、内定のみを目的とせず、その後の定着率を向上する取組を行った。

② インターンシップの充実

学生のアクティブなキャリア形成の重要な仕組みとして、非就職年次より以下のインターンシップを実施し、職業への憧れだけでなく、実際に社会人として働く意識の向上に繋げた。

○ 実施しているインターンシップ

- (ア) インターンシップ (単位取得型)
- (イ) インターンシップ (企業実習型)
- (ウ) インターンシップ (自己開拓型)
- (エ) インターンシップ (学内企業誘致型)
- (オ) 業界セミナー
- (カ) 職種理解セミナー
- (キ) 新社会人研修

③ 外国人留学生への就職サポート

日本国内で就労が可能となる様、就職支援を手厚く行った。

2019 年度も就職率 100%に向けて多彩な取り組みを実施した。

- (ア) 留学生採用企業の求人開拓
- (イ) 日本での就職活動の基本的な進め方を指導する「就職・進路ガイダンス」
- (ウ) 面接指導
- (エ) 各種提出書類の記入指導
- (オ) 卒業生同席での説明会開催
- (カ) 在留ビザ更新のための法務調査

④ 実績及びその他の活動

2019 年も就職内定率「95.9%」と例年同様の高い実績を上げることができた。

また、「学生の就職に対する満足度向上」及び「定着率の高い就職」に向け、以下の対策を実施し、求人内定につながると共に、学生・企業双方の満足度が高い求人内定機会を創り出し、人材を通じた社会貢献を実現している。

- (ア) 入社後の教育・研修カリキュラムの共同開発を実施
- (イ) 卒業生による支援 キャリア勉強会や業界職種に関する実例をもとにしたセミナーを実施

(3) 教育の質向上

教育の質向上にあたっては、教育の質保証のための機構整備と教員の資質向上について、教育活動部会及び教育推進連絡会議を中心に検討・実施した。

① 教育の質保証のための機構整備

教育の質を保証するための機構整備として、教育理念を踏まえた「卒業認定・学位授与の方針」(以下「DP」という)、「教育課程編成・実施の方針」(以下「CP」という)及び「入学者受入れの方針」(以下「AP」という)の三つのポリシーに基づいた教育課程・教育内容の見直し、自己点検・評価サイクルの見直しと自己点検・評価実施体制の強化に取り組んだ。

(ア) 教育課程・教育内容の見直し

質の高い教育を保証するためには、三つのポリシーに基づき、入学から卒業までの諸活動における一貫性を担保する必要がある。なお、CPに基づき、授業科目の適切な開設、教育課程の体系的な編成が求められる。そこで、上記の考えに基づき、有識者による研修会を実施し、カリキュラム編成についての見直しを実施した。

(イ) 自己点検・評価サイクルの見直しと自己点検・評価実施体制の強化

2019年度は、教育の質保証に対する社会的要請などに鑑み、自己点検・評価サイクルの見直しと自己点検・評価実施体制の強化に取り組んだ。自己点検・評価サイクルについては、自己点検・評価の実施および評価結果に対する内部監査の実施を年度内に前倒しすることで、改善に向けた取り組みを次年度の活動計画に反映することを可能とした。また、自己点検・評価実施体制については、実施委員会（各校、各部門において点検・評価活動の推進を支援する）が中心となり、組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動を推進しており、その活動状況を内部監査にて評価することで学校運営におけるPDCAサイクルが回るよう取り組んでいる。

② 教員の資質向上

教員の資質向上を実現するため、授業力可視化とこれを元にしたファカルティ・ディベロップメントの推進を行った。

(ア) 授業力の可視化

前年度に重点項目として定義した下記の教育力における「教務力」向上に向け、授業力可視化に取り組んだ。外部有識者による全授業の評価を実施し、評価基準及び評価方法について統一化を図った。また、評価結果のフィードバック及び分析結果をもとに授業改善をすすめ、学校責任者による再評価を実施した。

【教育力の構成】

- ・ 専門力：担当教員の専門分野における知見やスキル
- ・ 教務力：授業設計や運営、学生指導などの能力
- ・ 人間力：社会人基礎力やGCBなどの理解・適用能力

(イ) ファカルティ・ディベロップメントの推進

本校教員に必要なコンピテンシーを定義し、これを充足するための学内講座を開設し受講を促すとともに、より高度な知識やスキルを必要とする場合は、外部研修への派遣も積極的に実施した。

③ その他

半期毎に教員の授業内容に関するアンケートを学生に対して実施した。

また、当該アンケート結果を元に、授業運営改善や教員の能力開発を行った。

(ア) 授業運営改善 カリキュラム、シラバス及び時間割の見直し

(イ) 期待度アンケート（新入生を対象）

(ウ) 満足度調査（卒業時）

(4) グローバル推進

2019年度も、世界に羽ばたき、社会と世界をリードする人材教育の実現を目指して、グローバル化に関する取り組みを積極的に推進した。また、今年度は「自分の専門知識・技術を活かし、海外においても世界の発展に貢献できる人材の育成」をミッションに掲げ、英語と専門分野が両方海外で学べる留学プログラムの提供や、インドネシアで運営する BINUS ASO School of Engineering の学生との異文化交流会、全グループ校の学生が参加できる無料英語講座等を積極的に実施した。

① 外国人留学生の受入れ

麻生塾では、世界各国（中国、台湾、フランス、ベトナム、スリランカ、韓国、タイ、インドネシア等 24 カ国・地域）からの留学生を「日本語科」、「専門課程」で受入れている。専門課程には留学生に特化した学科も設置している。2019年12月末時点において麻生塾で学んでいる外国人留学生数は 499 名（日本語科：200 名、専門課程：299 名）である。留学生受け入れに際しては外国人スタッフ 4 名を配置することで学習支援のみならず、生活支援や就職支援にも対応している。また、日本国外で提携関係にある高等教育機関の学生に日本の文化や習慣、福岡の事情や麻生塾をより理解してもらうため、正規生としての受け入れだけではなく、短期プログラム（1 週間～1 か月）での受け入れも実施している。短期プログラムの内容は体験授業や日本人との交流、日本文化体験、名所旧跡や観光地視察、工場見学などである。短いながらも充実した日本での経験を通して麻生塾に興味を持つことで、参加者の多くが正規留学生として入学している。2019年度は中国、韓国など 5 カ国から 249 名（学生 200 名、教職員 49 名）が短期プログラムに参加している。

② 海外留学の強化

麻生塾では「グローバル社会に対応できる人材育成」に向け、全在校生を対象に海外留学のプログラムを提供している。プログラムは夏季・春季の長期休みを利用して参加する短期留学と、本校を 1 年間休学して参加する長期留学を実施している。

海外留学を目指している学生には、留学カウンセリング、奨学金制度、留学説明会・報告会などの以前から実施をしている支援に加え、今年度からは留学先でのリスク回避を主眼においた、出発前危機管理セミナー・危機回避シミュレーション等、学生のみならず保護者の方々にも安心して留学に参加してもらうための支援を実施した。

海外への送出し先としては、8 カ国、10 教育機関、留学生数 78 名（短期：42 名、長期：36 名）となっている。

(ア) 短期留学

夏季・春季合計で 42 名（夏：31 名 / 春：11 名）が参加。留学先はアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、フィリピン（セブ島）、ニュ

ーギーランド、韓国と多岐に渡っているが、カナダ、フィリピン(セブ島)に渡航する人数が例年同様特に多かった。また、春季留学においては、3月中旬からのコロナウィルス発生に伴う世界情勢の悪化を受けて、安全確保の観点より途中帰国を余儀なくされた学生が数名発生した。

(イ) 長期留学

36名の学生が長期留学に申し込みをし、麻生塾が長期留学プログラムの運用を開始して以来過去最高の参加者数となった。特に今年度からオーストラリア・パースにある州立の専門学校 North Metropolitan TAFEにて英語と専門分野の授業を両方受講するプログラムを開始し、2名の申し込みがあった。しかし、3月中旬以降のコロナウィルスによる世界情勢の悪化を受けて、安全確保の観点より、出発の延期、途中帰国が発生。2020年4月中旬現在、全員出発(再出発含む)待機の状態となっている。

③ セブ島語学学習

在校生の英語に対する興味喚起と異文化理解促進を目的に、麻生塾海外留学奨学生制度を2015年より開始。今年度で5回目の実施となった。麻生専門学校グループ内5校から8名の奨学生が選ばれ、フィリピン・セブ島に2週間滞在した。帰国報告会は、新入生の海外への興味喚起と英語学習の必要性訴求という視点から、2020年度はじめに実施予定。

④ 麻生海外留学奨学生制度(給付型)

上記セブ島への留学を支援する奨学生制度に加え、今年度は給付型の海外留学奨学制度を導入。英語力による選考により、麻生専門学校グループ3校11名の在校生が奨学生に選ばれ、最大15万円の奨学金を利用し、各自希望する渡航先に留学した。

⑤ 交流イベント

外国人留学生と日本人学生との異文化交流のための行事として「ワールドカフェ」を実施した。外国人留学生には日本をより深く知ってもらう機会を提供し、日本人学生にとっては日本にいながらにして外国人と交流することで日本以外の文化や慣習に触れることが可能になり、日本人学生のグローバル化に寄与している。

⑥ 全在校生対象 無料英語講座の実施

在校生の英語力向上と、英語への興味喚起を目的に、福岡校を中心に無料英語講座を実施した。コンテンツは英文法や英会話のみならず、ハロウィンなどの海外での行事に付随する内容を準備し、英語学習初心者でも抵抗なく参加できるよう配慮した。また、留学生の参加も多く、学生同士の国際交流を促進する良いきっかけとなった。

⑦ 教職員におけるグローバル感覚醸成

教職員におけるグローバル感覚の醸成の為、教職員自身がグローバルな視点を養えるよう取り組みを実施している。オックスフォード大学よりインターンシップ生を受入れての職場案内や交流イベントを実施。英語での仕事内容説明や

ディスカッションを行った。また、従来からある職員向け無料英語講座に加え、英語学習への取り掛かりハードルを下げするため、ヨガを通して英語を学ぶ「English YOGA」を5月以降11回実施した。

⑧ BINUS ASO School of Engineering 学生 サマーコースの受け入れ

2014年9月より、インドネシアのビヌス大学（私立大学）と共同で運営を開始した学部（BASE：BINUS ASO School of Engineering）の3年次修了者を対象に第3回サマーコース（8/19-9/13）を実施し、53名が来日した。

ソフトウェア CATIA を使った設計技術や旋盤等の大型加工機を使った実習等を受講すると共に、関連分野での企業インターンシップを実施した。また麻生専門学校グループに在籍する日本人学生との交流会を実施し、インドネシア人学生と日本人学生とが互いに異文化理解を深めた。

⑨ BINUS 大学 3年次生のインターンシップ受け入れ

将来的な麻生塾での高度外国人人材採用を視野に、2020年2月より1年間、BINUS 大学の3年次生3名を麻生塾にてインターンシップ生として受け入れ。各人のBINUS 大学での専攻分野に紐づく部署で業務を経験する。尚、このインターンシップはBINUS 大学の卒業要件単位として認められる。インターン生の日本での就業体験はもとより、麻生塾の組織としてのグローバル対応能力向上に向けての動き。

2. 学校運営

(1) 運営組織

組織体制としては13校の専門学校に加え、各校の運営をサポートする本部機能を有している。

① 本部機能

法人本部・経営企画室・教育推進室・情報管理室・キャリア支援本部という機能別に役割を分けることにより、各部門の役割と部門の目指すべき方向性を明確にした。

② 各学校

学校運営全般業務

(2) 社会的責務への対応

学校法人麻生塾は、7,077名の学生が在籍しており、年々社会的存在感も大きくなっている。また、昨今では、留学生の増加に伴い、国際的な交流を基とした信頼関係の構築が不可欠となっている。

学校法人麻生塾のなす学校教育や、CSR活動への注目度も大いに高まっている。

そこで、学校法人麻生塾の果たす社会的責任の再認識、保護者及び地域社会から信頼される組織としてのあり方から、法律や規制の遵守（法令遵守）はもとより、教育活動の透明性、倫理、環境問題等へのより質の高い具体的な対応が求められている。

【社会的責務への対応】

企業、社会に貢献するべく、各校にて質の高い授業を展開し、優秀な人材を送り出す努力を続けている。

【社会的責務を果たす前提としての組織適性化】

麻生塾ではこのような法令順守の重要性およびコンプライアンスの観点から、組織として、「危機管理体制」としてリスクマネジメント委員会を設置し、リスク管理、リスク事案発生時の迅速対応を図る体制を置いている。

かかる体制により、リスク事案発生の防止、早期対応により、適切な教育活動、CSR活動が可能となり、社会的責務を果たしている。

下記にて具体的に記す。

【継続的取り組み】

- ① コンプライアンス（法令遵守）研修への参加後、法令順守の重要性を各部門へ発信を実施
- ② リスク、クレーム対応能力の醸成を図る為、外部リスク関連研修へ参加
- ③ リスクマネジメント部門の認知活動を実施
- ④ 各種マニュアルのブラッシュアップを実施し、教職員・学生の安全確保体制の構築。

【2019年度取組】

- ① リスクマネジメント委員の再構成を図り、リスクマネジメント委員会を開催し、リスク事案に対応し、また、解決能力を醸成している。
- ② 組織的にはリスク担当部署を設置し、情報の収集を行い、再発防止に力点を置いている。
- ③ ヒヤリハットレポートを集約し、リスク分析を行い教職員の認識に落とし込みを図っている。

以上、質の高い教育、CSR活動と通じ、社会的責務を果たし、その前提として「危機管理体制」を構築している。

3. 教育活動

(1) カリキュラムの変更、学科の新設及び廃止

2019年度からのカリキュラムの変更、学科新設・廃止を次のとおり行った。

① 単位制の導入

麻生情報ビジネス専門学校

専修学校麻生ビューティーカレッジ

② 学科の新設

近年、専門的知識・技術を身に付け、学校法人麻生塾で学び、日本で就職したい留学生が増加している為、麻生情報ビジネス専門学校に「国際ITエンジニア科」、麻生外語観光&製菓専門学校に「国際ホテル・リゾート科」、麻生医療福祉専門学校福岡校に「国際介護福祉科」、麻生医療福祉&観光カレッジに「国際

ビジネス科」を新たに開設した。

専門士等以上の学生が税理士等高度な会計知識を学べる様、麻生情報ビジネス専門学校に「経理専攻科」（1年課程）を新たに設置した。

③ 学科の廃止

また市場ニーズの低下により、

(ア) 麻生医療福祉専門学校福岡校の「医療秘書科」と「医療情報科」を統廃合し、「医療秘書・事務科」とした。

(イ) 麻生情報ビジネス専門学校北九州校の「CGクリエイタ科」の募集停止を行った。

(ウ) 麻生情報ビジネス専門学校の「ネットワークセキュリティ科」、「電子システム工学科」、「税理士専攻科」（全て4年課程）の募集停止を行った。

(2) キャリア教育 (GCB 教育)

① GCB 教育の概要

麻生専門学校グループの教育理念に沿った人材育成の一貫として位置付けられている独自のキャリア教育プログラムである。実社会にて、専門スキルを十分に発揮するため必要とされる社会人スキルと、その土台となる人間力の向上を目的とし、3段階の教育内容にて構成されている。

教育目標は、麻生グループ102社（2019年4月1日現在）が掲げる人材「グローバルシティズン」（定義：世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に貢献する人）を育成像とし、GCB I・IIプログラムについては全学生が履修する。

(ア) GCB I

社会で生き抜く基盤を「感謝する心」として据え、自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築するコミュニケーションなどを学ぶ

(イ) GCB II

強い信念と共に公・社会を視野に入れ、具体的な行動目標（言語化・数値化）をもって努力を継続することで実現する「志」について考える

(ウ) GCB III（選抜方式）

グローバル社会における活躍人材や多様性を生かしたリーダーシップ、また組織力を高めるフォロワーシップなどを学内外の講師陣より学ぶ

② 教育改善

GCB 教育は2011年にGCB Iを開始し、以後、順次GCB II（2012年）、GCB III（2013年）と展開してきた。社会ニーズに沿って毎年行う内容改訂においては、2018年度に社会人基礎力の向上を目指すものとして、「主体性」、「課題発見力」、「情況把握力」等についての内容を強化したことに加え、2019年度は、GCB Iにおいて「専門性を高める」こと、さらに社会の現状や目指す業界の動向等について、日常的に関心を持ちながら行動することの重要性を訴求する内容を付加した。

これは、日本経済団体連合会による『2018年度新卒採用に関するアンケート調査』から、直近の傾向として企業が「面接時に履修履歴(成績証明書等)を重視している」点と、「業界研究・企業研究が不十分な学生が増加した」との印象を受けていることに事由する。付随して同アンケートでは、「自社の志望動機が弱い学生が増加した」という結果も前述と連動しており、特にGCBⅡでは「目指す社会人像」、「立志」について筋道を立てて考え言葉で表現するプロセスを強化することにより、明確な自己PRを持った志望動機に繋げられるよう内容の工夫を行った。GCBⅢにおいては例年通り、選抜学生(43名)を対象に2019年9月より翌年6月までの予定で開講していたが、グローバル社会を体感するアジア研修や、自らの将来像を熟考するにあたり好機となる国内合宿(山口・萩)をCOVID-19の世界的な感染拡大により中止せざるを得ない結果となってしまったことが残念である。学生たちには、ネットや各種メディアを利用して海外の文化や経済、習慣などに加え、現地における日系企業のビジネス展開等を主体的に情報収集する機会を得るよう指導した。

(3) 研究関連活動

文部科学省および厚生労働省の委託事業の参加状況は下記のとおりである。

- (ア) スマートコントラクトを使用したシステム開発人材の育成
- (イ) 専門学校留学生の戦略的受け入れ推進事業
- (ウ) 福島県地域啓蒙のためのソフトコンテンツ人材育成事業
- (エ) 技術者学び直し講座のモデルとなるITエンジニアを対象とした
eラーニング講座開設およびガイドラインの実証
- (オ) 札幌(北海道)をモデルとした地域創生のためのIT人材育成と企業連携推進
- (カ) 農業分野のスマートワークを推進・実現する人材育成プログラム開発事業
- (キ) 介護福祉士を目指す外国人留学生等に対する相談支援等の体制整備事業
- (ク) まちづくりファシリテーター養成講座
- (ケ) 「Society5.0社会を支えるエンジニア育成事業」
 - 1. Society5.0対応カリキュラム開発推進委員会
- (コ) 「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」機動的な産学連携体制の整備「ゲーム・CG分野中核的人材養成のための全国産学官連携協議会構築事業」
- (サ) 令和1年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
 - 1. 地域を支える訪問リハビリテーション中核人材育成事業
- (シ) 地域を支える訪問美容・介護美容中核人材育成事業
- (ス) 教職員の資質能力向上の推進(教職員研修プログラムの構築)
- (セ) 教育訓練プログラム開発事業(介護人材2年開発コース)
- (ソ) 「九州・沖縄地域共生社会推進会議」地域包括ケアワーキンググループ
- (タ) Society5.0実現のためのIT技術者養成モデルカリキュラム開発と実証事業

- (チ) 教育訓練プログラム開発事業（モノづくり人材2年開発コース）
- (ツ) 介護における車椅子シーティングに関する技術取得のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業
- (テ) 岩手県のスポーツクラブ発展に寄与する人材を育成する為の体制整備事業

4. 学生支援

(1) キャンパスライフサポートセンター設置

学生相談の総合窓口としてキャンパスライフサポートセンターを設置し、学生が修学・就職活動の悩みを自ら乗り越え、入学目的を達成するためのサポートに取り組んでいる。

センター運営にあたっては、守秘義務を順守するとともに、個人情報保護管理規定に則って相談内容を適切に管理している。

① 実施内容

- (ア) 臨床心理士によるカウンセリング
- (イ) 担当者によるインテーク面談
- (ウ) 担当者によるキャリアコンサルティング

(2) 学修支援のための奨学金制度

将来有為な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、多様な能力を評価する奨学生制度を実施している。

- (ア) 麻生専門学校グループ特待生制度
- (イ) ドリーム特待生制度
- (ウ) 資格等特待生制度
- (エ) 麻生進級支援制度
- (オ) 東北みらいプロジェクト
- (カ) 海外留学支援制度

5. 教育環境の整備

(1) 教育環境の整備状況

① 実習室の改修

麻生ビューティーカレッジの福岡キャンパス統合に伴い、美容実習設備の再整備を行った。また麻生外語観光&製菓専門学校のプライダル実習室、トラベル実習室にて内装や設備を一新した。

② ICT教育環境の改善

今後の授業環境の変化やクラウドサービスの基盤準備のため、回線契約見直しや機材増強によるネットワーク通信速度を改善し、各校の特色に応じた教室パソコンの一部入れ替えを行った。

③ eスポーツ部の立ち上げ

新たな部活動としてeスポーツ部を立ち上げ、ゲーム機やゲーミングPC導入及

び専用ネット回線の整備を実施し、ゲームを通じた学内外の学生交流も行った。

6. 社会貢献・地域貢献

(1) 活動状況

① 次世代リーダー養成塾への担任派遣

日本の次世代リーダー養成塾とは、経済界や地方自治体を中心となり、全国の志の高い高校生約 200 名を対象に日本以外にも世界を舞台に挑戦する人材の育成を目指したサマースクールである。次世代リーダー塾では、従来の学校教育では実現できない、日本や世界を代表する様々な分野で活躍する一流の講師を招き、学問の楽しさ、人としての生き方がどうあるべきかを教える。

クラス担任は企業の中堅社員が務めており、麻生専門学校グループからは毎年講師を派遣するなどして活動を支援している。

② ボランティア活動

(ア) 地域ボランティア活動

国家・地域社会に貢献する観点から、学生の人間的成長を促すため、学生の社会貢献・地域貢献活動（ボランティア活動）を実施している。

活動内容： ・ 中洲環境浄化パレード

- ・ どんたく港まつり
- ・ 粕屋町バラ祭り
- ・ キッズワークランド
- ・ 防犯ボランティア
- ・ 車椅子レクダンスフェスティバル
- ・ MUSIC CITY 天神
- ・ 糸島市民祭り
- ・ ウェルとばた夏祭り
- ・ 博多ラグビーストリート
- ・ 博多灯明ウォッチング
- ・ 福岡マラソン
- ・ みんなの森林づくり
- ・ 秋祭り in 博多 2019
- ・ 在宅重度肢体障がい者レクレーション
- ・ 歳末たすけあい運動募金ボランティア
- ・ 学校法人麻生塾福岡キャンパスもちつき大会
- ・ 暮らしを変える目の機器展
- ・ 障がい者週間の集い
- ・ 年末防犯、性犯罪撲滅ボランティア
- ・ ATM パトロール
- ・ 北九州市民ひまわり駅伝
- ・ 門司みなとまつり

- ・水かけまつり
- ・こくらハロウィーン
- ・三郎丸保育園夏祭り
- ・北九州からあげ王座決定戦
- ・門司海峡キャンドルナイトなど

(イ) 子ども食堂

地域の小学校、公民館と連携し学生が企画・計画・運営を行うこども食堂を学内で月1回のペースで実施している。

食事の提供や、こども達の宿題などを支援する活動や健康増進のためのレクレーションなども実施している。

2019年度については、この取り組みを「学生こども食堂全国ネットワーク大会 in 埼玉」にて発表するなどの取り組みも行った。

内容：地域の子どもたちに食事の提供 / 学習支援 / 東住吉小学校のボランティア参加

連携団体等：小学校、公民館、社会福祉協議会、一般企業

(ウ) 北九州高校生デザインコンテスト

絵を描くことが好きな高校生を対象にイラストへの興味・関心を高め、業界で活躍するプロの方から評価を得られる機会を提供している。

7. 働きがい創生

(1) 多様な働き方への対応

1人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事の責任を果たすとともに、家庭や地域生活において、多様な生き方を選択・実現できる様、下記の取り組みをおこなっている。

- (ア) 適切な労働時間の管理や有給休暇取得の定着
- (イ) 長時間労働の制限と勤怠是正報告書の提出による抑止対策を実施
- (ウ) ライフステージに応じた働き方に対する情報発信（時短勤務、育児休業・休暇、子の看護休暇、介護休業・休業、時差出勤など各種制度）
- (エ) 時間単位年次有給休暇制度の定着
- (オ) ノー残業デーの設定
- (カ) 学内保育園『ASOはぐみらい保育園』での育児サポートの情報提供
働きやすい環境づくりとして、『ASOはぐみらい保育園』の運営を通じ、育児サポートしている。教職員利用者のために、幼保無償化の認定施設の許可を得た。近年の育児休業取得率は100%を達成している。
- (キ) 新型コロナウイルス感染防止に伴う多様な働き方のニーズ対応のため
テレワークのトライアル導入

以上